

人間社会学部開設10周年記念にあたって

人間社会学部長（創設時） 長尾 演 雄

人間社会学部開設10周年おめでとうございます。日本の大学を取り巻く今日の状況を考えますと、開設10周年を何事もなく無事に迎えられることだけでも祝福されるべきことだと思っておりますが、人間社会学部は開設10年の間に、新しい学科を増設し、大学院の創設を成し遂げ、そしてまた、念願の学部の渋谷移転を達成させてきたのですから、大いに祝福されるべきことだと思います。学部の開設に関わることができたわたくしとしては、このうえない喜びであります。本当におめでとうございます。

わたくしは、文部科学省への人間社会学部の開設申請にも深くかかわることになった者です。学部開設10周年にあたり、つぎのことをお話し、関係者の皆様にご一考を心からお願いしたいと思っています。

人間社会学部開設に関わる以前に、わたくしは30数年間、よその大学で教員生活を送ってきました。その時の体験や見聞きしたことから、学生や大学教員について、また、大学のあり方について、いろいろ考えさせられてきました。やっと念願かなって、入学した大学に馴染めずに通うのが苦痛になり、不登校に陥る学生を出さない学部づくりはどうあればいいのか、あるいは、折角、合格できた大学に元気で通えなくなるとか、研究意欲が萎えてしまうような研究仲間をださない学部づくりに取り組んでみたいという強い思いで、新学部の構想づくりや申請書作成に取り組んだ記憶がいまでも鮮明に思い出されます。

大学と呼ばれる社会的場は“学び合い教え合う共同体”であるべきだという思いを、間ににじませた申請書を書き上げ、学部開設に漕ぎつけたこともよく覚えています。そして、文部科学省の認可が下りるのが予定より大幅に遅れ、学生募集に慌てたことや、他大学に勤務していたとか、よその研究機関で働いていた先生方に大急ぎで参集していただき、新学部はスタートしました。

大学に行けば、何か楽しいことがあるのではと、学生たちがいそいそと登校したくなるような学部を、そしてまた、研究仲間と楽しく談笑し、研究テーマや問題意識を気楽に語り合える機会が無数につくれるような学部づくりを思い描きながら、4年間の学部長生活を過ごしてきたことがいまでも昨日のように思い出されたりもします。

人間社会学部開設10周年記念のこの日に、“学び合い教え合う共同体”づくり10年の歩みを一度振り返り、つぎの10年、20年に向けた学部づくりが始まる日に是非していただきたいと考えました。

学部開設当初の念願を一つひとつ実現してこられた人間社会学部です。きっと、“学び合い教え合う学問共同体”づくりの念願も一つひとつ実現していつてくれるだろうことを確信し、お話を終わりにします。有難うございました。